

キヨスミウツボ *Phacellanthus tubiflorus* Siebold et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 12。森林性の寄生植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

寄生性の多年生草本。短い根茎から多くの茎が分かれて直立する。地上茎はやや太く、はじめ白色でのち黄色を帯び、高さ 5~10cm である。葉は鱗片状で卵形、直立して重なり合う。花期は 5~7 月、茎の先端に十数個集まった苞の腋に、白色の花を 1 個ずつつける。苞は長楕円形または狭卵形、時にへら状長楕円形で長さ 1~1.5cm である。花冠は長さ約 2.5~3cm の細長い筒状で斜上し、先は唇形となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 33122, 1988-7-17)、9 鳳来南部 (小林 69303, 2000-6-18)、11 作手 (芹沢 80580, 2006-6-16)。西：20 足助 (山崎玲子 2854, 2003-6-26)、23 藤岡 (日比野修 1464, 1993-7-19)。尾：37a 瀬戸 (塚本威彦 3159, 2008-6-23)。5 稲武 (面ノ木峠, 鈴木 学 1430, 1983-6-26) と 25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 764, 1958-6-23) で採集された標本もある。

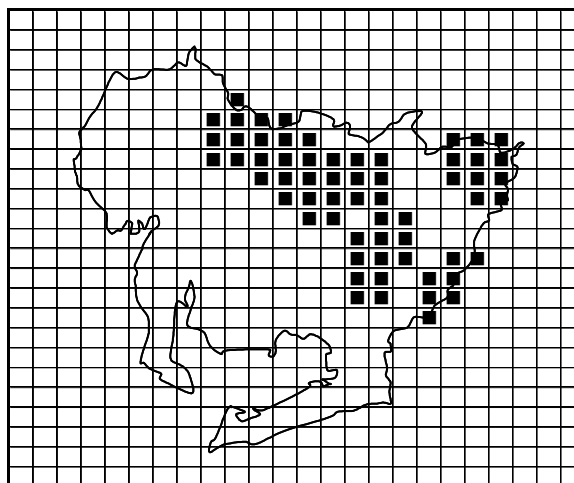
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸 (中北部、東北部)、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育し、カシ・ナラ類、アジサイ類などの根に寄生する。自然度の高い森林だけでなく、造林地などに生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地点が少ない上に、どこでも個体数が極めて少なく、確実に観察することは困難である。森林の伐採が最大の脅威である。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【関連文献】

保草本 I p.126, 平草本III p.135, 平新版 5 p.161, SOS 旧版 p.82, SOS 新版 p.31,33.